

Hewlett Packard
Enterprise

資源循環のデザインと デジタル戦略の推進

三菱マテリアルが統合ID管理基盤「MIMa」を整備し
ガバナンスとシナジーを両立させるITモダナイゼーションを加速

三菱マテリアルが、MIMa (Materials Identity Management) と呼ばれる統合ID管理基盤の運用を開始した。2024年度には、グローバル拠点を取り込んで最大2万ユーザーを網羅する単一のID管理システムとして完成させる計画だ。ガバナンスとシナジーを両立させるITモダナイゼーションを進める同社において、MIMaは最重要のインフラのひとつに位置づけられる。HPE Servicesは、複雑化していた旧ID管理環境を詳細に調べ上げ、正確性、優れた運用・保守性、変化への適応力を備えた統合的なID管理基盤の整備をトータルに支援。三菱マテリアルの「経営戦略と一体化したデジタル変革の推進」を支えている。

循環をデザインし持続可能な社会を実現

『人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する』——三菱マテリアルの中期経営戦略2030で掲げる「私たちの目指す姿」に組み込まれた、「循環をデザインする」という同社のビジョンに注目したい。銅に代表される金属や高機能製品を広範に提供しながら、資源の循環を実践し、事業の柱のひとつとして確立している企業は世界を見渡しても決して多くない。E-Scrapと呼ばれる電子機器類の廃基板から有価金属をリサイクルする三菱マテリアルの処理能力は、世界最大規模となる年間16万トンに達するという。同社 CIO システム戦略部長の板野則弘氏は次のように話す。

「三菱マテリアルは『DX注目企業2023』に初選出されました*。E-Scrapの取引業務を効率的に行うプラットフォームMEX (Mitsubishi Materials E-Scrap EXchange) を2021年12月より運用しており、取引先にメリットの大きいビジネスモデルを実現したことが高く評価されたものです。また、2020年に開始したMMDX (三菱マテリアル・デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション) は第2フェーズへと進んでおり、経営戦略と一体化した全社のデジタル変革をさらに



三菱マテリアル

三菱マテリアル株式会社

業種：製造

地域：日本

ビジョン

「循環をデザインする」という全社ビジョンのもと、ガバナンスとシナジーを両立させるITモダナイゼーションを進め、経営戦略と一体化したデジタル変革を実現する

戦略

デジタル変革とビジネス成長を支えるインフラ整備の一環として、「正確性」「運用・保守性」「変化への適応」を実現する統合的なID管理基盤を整備

成果

- HPE Servicesのトータルな支援により、システムアーキテクチャと業務プロセスを見直し、統合的かつシンプルなID管理を実現
- 国内外のグループ従業員とビジネスパートナー最大2万ユーザーを、単一のID管理システムに収容可能に
- ハイブリッドクラウド環境、モダンアプリケーション、ゼロトラストネットワークアクセス、組織変更など様々な変化へ柔軟に対応可能に

加速させています」

板野氏は、前職で生産技術に携わった後、長年にわたり情報システム部長を務め、DX推進リーダーとしての活動等を経て、2021年に三菱マテリアルのCIO(最高情報責任者)システム戦略部長として着任した。

「三菱マテリアルでは、MMDXを経営基盤強化のための重要施策のひとつに位置づけており、経営陣がまさに本気でDXに取り組んでいます。DXは手段であって目的ではありません。デジタル技術を使って事業の高度化や経営変革という成果に結びつけるには、DX(手段)とIT(仕組み)を一体的に捉えて取り組む必要がある、というのが私の持論です。そしてIT部門の重要な役割は、ガバナンス(統治)とシナジー(成果)を両立させるITモダナイゼーションの実現です」(板野氏)

2022年8月、三菱マテリアルは「MIMa(Materials Identity Management)」と呼ばれる統合的なID管理基盤の運用を開始した。MIMaは、複雑化の進んだ旧ID管理環境の課題を一掃し、同社の成長戦略を支える最重要なインフラのひとつに位置づけられるものだ。HPE Servicesは、この統合ID管理基盤MIMaの構想を具現化し、設計・構築・保守までをトータルにサポートしている。

統合的なID管理システムに 最大20,000ユーザーを収容

三菱マテリアルでは、全社デジタル戦略「MMDX」において、ビジネス付加価値、オペレーション競争力、経営スピードの向上を

目指して様々な取り組みを行っている。新しいチャレンジを支えるプラットフォームやアプリケーションの拡充も急速に進む。2023年4月に設立された三菱マテリアルITソリューションズは、グループのIT機能を集約した中核組織として、MMDXを支えるITモダナイゼーションの実現というミッションを担っている。同社ITソリューション部 部長補佐の大橋由信氏は次のように話す。

「DXとITを一体的に捉えて取り組む上で、既存のID管理の仕組みがビジネスの要求に即座に応えられないケースが増えてきました。最大の課題は複雑化です。クラウドアプリケーションを速やかに利用できるようにしたい、ゼロトラストセキュリティを実装したいといった要求に応えるのが困難だけでなく、ユーザー情報の登録や更新など日々の運用にも非常に多くの手間を要していました」

三菱マテリアルでは、主要なシステム単位でID管理を行っていた時代から、全社レベルでのActive Directory(AD)の導入を経て、複数のシステムが持つユーザー情報をADに連携させる仕組みを構築してきた。そうした過程で、ID管理システムは非常に複雑なものになっていったという。長年にわたる改修の積み重ねにより、システムの一部はブラックボックス化していた。

「ID管理システムの全面刷新と、複雑化に起因する様々な問題の一掃を決断したのは2020年後半でした。目指したのは、ビジネス要求に即座に応えられる統合的なID管理システムの実現です。私たちは日本ヒューレット・パッカートの提案を採用し、HPE

ServicesのチームとともにMIMa構築プロジェクトを進めてきました。HPEを選定する決め手になったのは、ID管理領域における技術力と知見、それを裏づける豊富な実績でした」(大橋氏)

HPE Servicesの提案と 基本方針の策定

HPE Services(HPE Pointnextから改称)は、ハイブリッドクラウドやデジタルワークプレイスなどの革新的なDXプラットフォームを提供し、企業や組織のDXへのチャレンジをサポートするサービス組織である。世界200カ国、1万5,000人を超えるITプロフェッショナルが、豊富な実績とナレッジに基づくアドバイザリー、構築サービス、運用保守サービスをトータルに提供している。デジタルワークプレイスソリューション領域のコンサルティングを担当する野中英孝氏は次のように話す。

「既存環境のアセスメントを起点に現行のID管理が抱える課題を明らかにし、次期ID管理の『コンセプト』と『あるべき姿』についてワークショップを通じて議論を重ねました。そして、三菱マテリアル様固有の要件を取り込みながら、統合ID管理基盤MIMaの姿とそこに至るロードマップを具体化していきました。私たちの提案のポイントは、『アーキテクチャの抜本的な見直しと、標準化された業務手順の適用』『HPE IDM Engineによる効率的な開発』という2点に集約されます」

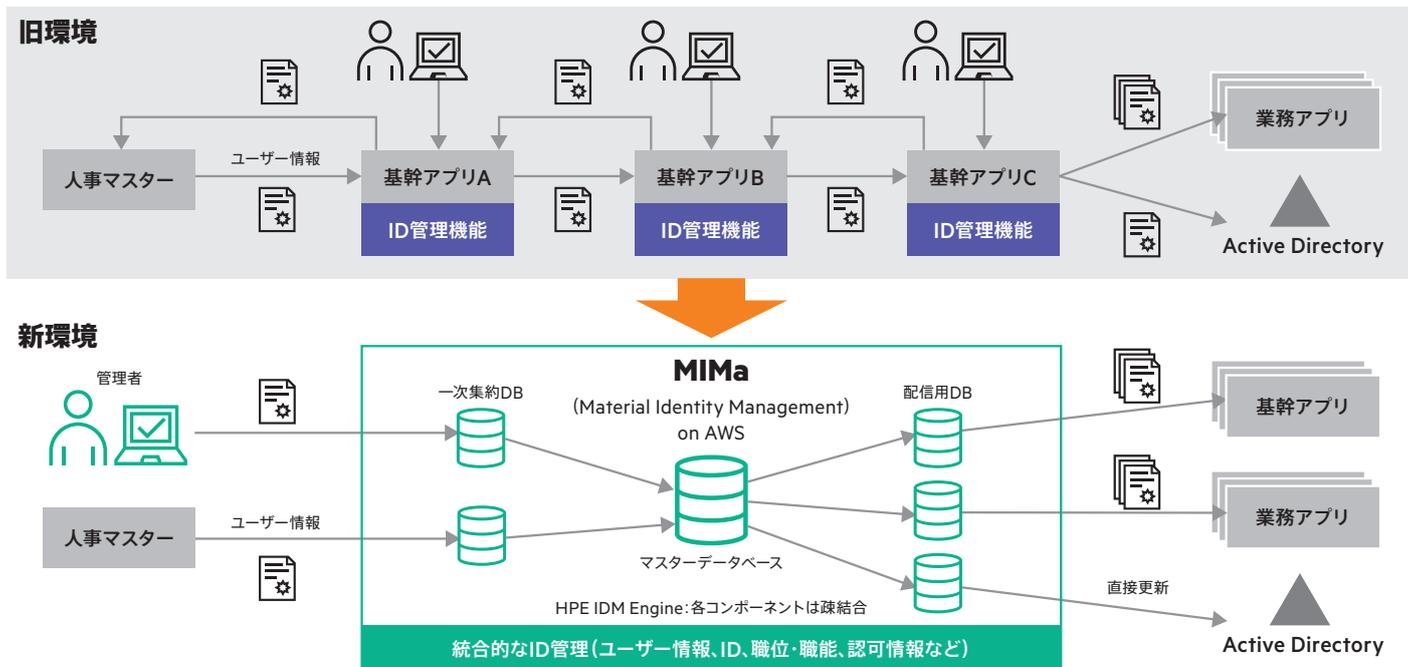
HPE IDM Engineは、統合的なID管理を実現するためのHPEの知見が凝縮されたフレームワークである。ワークショップでは、



デジタル技術を使って事業の高度化や経営変革という成果に結びつけるには、DX(手段)とIT(仕組み)を一体的に捉えて取り組む必要がある、というのが私の持論です”

— 三菱マテリアル株式会社 戦略本社
CIO システム戦略部長
板野 則弘 氏





「正確性」「運用・保守性」「変化への適応」を実現するという開発の基本方針が確認された。HPE側のプロジェクトマネージャーを務めたHPE Services 統括本部の村田和紀氏は次のように説明する。

「ユーザー情報を最新・正確かつ承認済みの状態に保つ『マスターデータベース』を中核に整備し、人事マスターからの一次集約、アプリケーションへの配信を担うデータベース間を『疎結合』とするアーキテクチャを提案しました。これにより、組織変更だけでなくアプリケーション側の様々な要求に柔軟に対応できるようになります。また、ID管理に必要な機能がMIMaに統合されることで運用・保守性は大幅に向上し、システムのシンプル化は安定的なサービス提供にも寄与します」

ブラックボックスを解明し 着実にデータ整合性を確保

2021年5月に設計が始まったMIMaのプロジェクトは、構築、移行、並行稼働テストを経て、2022年8月より17,000ユーザー規模での本番運用を開始している。三菱マテリアルITソリューションズ ITソリューション部の峯啓介氏は次のように振り返る。

「HPE IDM Engineのようなフレームワークは、機能性を満たしながら将来の変化にも柔軟に適應できる合理的な選択になったと思います。現在は、複数のシステムでIDを管理し運用してきた体制から、MIMaひとつを運用すればいいシンプルな体制になりました。困難の多いプロジェクトでしたが、HPE

Servicesのチームと協力しながら粘り強く課題解決に取り組めたことが、最大の成功要因であると考えています」

PMとして最前線で課題と対峙したHPEの村田氏は次のように話す。

「新旧環境を並行稼働させながら、三菱マテリアル様と一体となって出力データの整合性確認を進めていきました。当初、ウォーターフォール型の開発体制を採っていたのですが、プロジェクト終盤では、短いサイクルで問題点の確認と修正を繰り返す手順に切り替えることで、システムとしての整合性を保ちながらスピードを上げることができました」

大橋氏は、「2022年には完全カンパニー制



HPEを選定する決め手になったのは、ID管理領域における技術力と知見、それを裏づける豊富な実績でした”

－三菱マテリアルITソリューションズ株式会社
ITソリューション部
部長補佐 大橋 由信 氏



HPE IDM Engineのようなフレームワークは、機能性を満たしながら将来の変化にも柔軟に適應できる合理的な選択になったと思います”

－三菱マテリアルITソリューションズ株式会社
ITソリューション部
峯 啓介 氏





(写真左より)日本ヒューレット・パッカード合同会社 インダストリー・エリア営業統括本部 エンタープライズアカウント営業本部 首都圏営業部 小田 亜矢子 氏 / 日本ヒューレット・パッカード合同会社 HPE Services統括本部 製造・流通サービスデリバリー 第二本部 第四部 村田 和紀 氏 / 三菱マテリアルITソリューションズ株式会社 ITソリューション部 部長補佐 大橋 由信 氏 / 三菱マテリアル株式会社 戦略本社 CIO システム戦略部長 板野 則弘 氏 / 三菱マテリアルITソリューションズ株式会社 ITソリューション部 峯 啓介 氏 / 日本ヒューレット・パッカード合同会社 クラウドサービス事業統括本部 コンサルティングビジネス推進本部 デジタルワークプレイスソリューション部 野中 英孝 氏

を含む組織変更もありましたが、大規模な組織変更に伴うユーザー情報の更新をスムーズに行うことができました。ハイブリッドクラウド環境、モダンアプリケーション、ゼロトラストネットワークアクセス、組織変更など様々な変化へも柔軟に対応できるでしょう。正確性、運用・保守性、変化への適応という目標は、着実に達成へと近づいています」と評価する。

海外拠点の3,000ユーザーをも取り込んで、トータル20,000ユーザーを収容する統合ID管理基盤MIMaは2024年度中に完成する計画だ。板野氏は次のように結んだ。

「MIMaは、IT部門が全社に対して価値を提供する基盤となるシステムとしての重責を担うとともに、事業部門や現場がガバナンスとシナジーを実感できるシンボリックな存在となりました。現在進めているグローバルでのERP導入においても欠かせないインフラです。三菱マテリアルの経営、事業部門、現場に価値を提供するという意味では、私たちIT部門とHPEの目標は同じです。これからも共にミッションを担う『戦友』として、力を合わせてもらえることを期待します」

導入製品の詳細はこちら

→ www.hpe.com/jp/ja/services

スマートフォン、
タブレットからの
アクセスはこちら



お問い合わせはこちら



カスタマー・インフォメーションセンター

0120-268-186

(フリーダイヤルをご利用できない場合 03-6743-6370)

CALL 月曜日～金曜日 9:00～19:00

(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、および5月1日お休み)

SOLUTION

サービス

- HPE Services
- HPE IDM Engine

**Hewlett Packard
Enterprise**

© Copyright 2023 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。日本ヒューレット・パッカード製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。日本ヒューレット・パッカードは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱字に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

日本ヒューレット・パッカード合同会社
〒136-8711 東京都江東区大島 2-2-1

A00134580JPN 記載事項は個別に明記された場合を除き2023年9月現在のものです。